2026年度　入学試験問題

算　数

（第2回）

［注意］

1．定規、三角定規、分度器、コンパス、計算機は使ってはいけません。
　これらはかばんの中にしまいなさい。

2．試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

3．解答用紙は、問題冊子の中にはさんであります。試験開始の合図があったら、
　解答用紙を取り出して受験番号と氏名を記入し、QRコードシールをはりなさい。

4．解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

5．問題冊子の余白等は自由に使って構いません。

6．試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

東京都市大学付属中学校

1 次の□に当てはまる数を答えなさい。

問1 $\left\{5\frac{1}{2}-1.6\times\left(3\frac{3}{4}-1\frac{1}{8}\right)\right\}\times 10=$□

問2 $\left\{\left(4\frac{1}{2}+\square\right)\div 2\frac{1}{4}-0.6\right\}\times 1.5=2.7$

問3　A君が1人で行うと15日で終わり、A君とB君の2人で行うと6日で終わる仕事があります。この仕事を2人で1日行ったあと、B君が1人で3日行いました。残りの仕事をA君1人で□日行い、仕事は終わりました。

問4　ある学校の食堂では、1食350円のカレーライスと1食400円のラーメンの2種類を売っています。ある日、2種類合わせて600食売れ、その売り上げは228500円でした。この日、カレーライスは□食売れました。ただし、消費税は考えないものとします。

問5　$2\frac{1}{24}$ にかけても、$1\frac{17}{18}$ にかけても、答えが整数になるような0より大きい分数の中で、最も小さい分数は□です。

問6　赤色のカードが7枚、青色のカードが5枚、黄色のカードが3枚あり、各カードにはそれぞれ異なる番号が書かれています。この中から同時に3枚を選ぶとき、ちょうど2枚が同じ色になる選び方は□通りです。

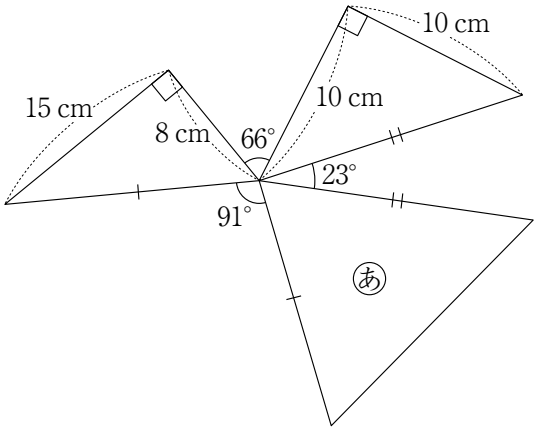
1 の問7に続きます。

（計算用）

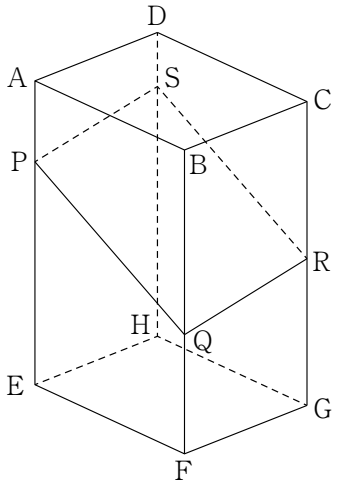
1

問７　下の図は、１つの点に３つの三角形の頂点をくっつけた図形です。三角形㋐の面積は

□ cm^2 です。

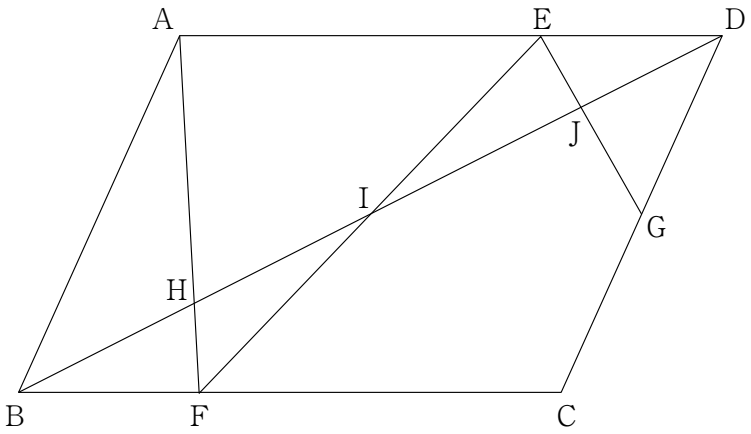


問８　下の図のように、直方体ＡＢＣＤ－ＥＦＧＨを点Ｐ、Ｑ、Ｒ、Ｓを通る平面で２つの立体に分けます。ＡＥ＝９cm、ＰＥ＝７cm、ＱＦ＝３cm、ＲＧ＝４cmであるとき、点Ｂを含む方の立体の体積は、点Ｆを含む方の立体の体積の □ 倍です。



（計算用）

2 下の図のような平行四辺形ＡＢＣＤがあります。辺ＡＤ上でＡＥ：ＥＤ＝２：１となる点をＥ、辺ＢＣ上でＢＦ：ＦＣ＝１：２となる点をＦ、辺ＣＤのちょうど真ん中の点をＧとします。また、ＢＤとＡＦ、ＥＦ、ＥＧが交わった点をそれぞれＨ、Ｉ、Ｊとします。あとの問いに答えなさい。



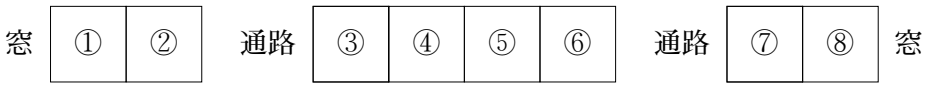
問１　ＡＨ：ＨＦを、最も簡単な整数の比で表しなさい。

問２　ＢＨ：ＨＩ：ＩＪ：ＪＤを、最も簡単な整数の比で表しなさい。

問３　四角形ＡＨＩＥの面積は、五角形ＣＧＪＩＦの面積の何倍ですか。

（計算用）

3　A，B，C，D，E，F，G，Hの8人が飛行機に乗り、下の図のような2人がけ、4人がけ、2人がけの横1列の座席①～⑧に1人ずつ座ることとなりました。通路をはさんで座る場合は「隣同士(となり)に座る」と言わないこととします。8人の座り方についてあとの問いに答えなさい。

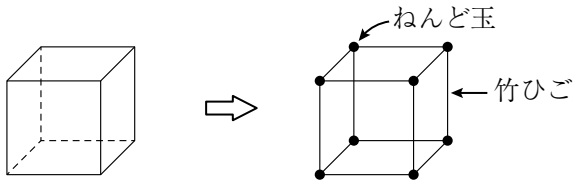


問1　AとBの2人は隣同士に座り、AとCの2人は①または⑧に座るとき、8人の座り方は何通りありますか。

問2　問1の座り方のうち、DとEの2人が隣同士にならない座り方は何通りありますか。

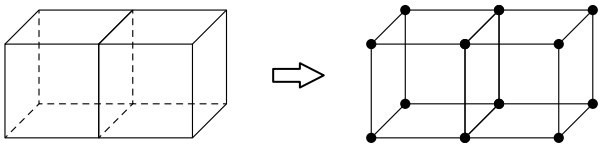
（計算用）

4　【図１】のように、立方体を竹ひごとねんど玉を使って作ります。



【図１】

また、２つの立方体をつなげるときは、面と面がぴったり重なるようにくっつけることとし、【図２】のように重なった部分の竹ひごとねんど玉はそれぞれ１本、１個だけ使って作ります。

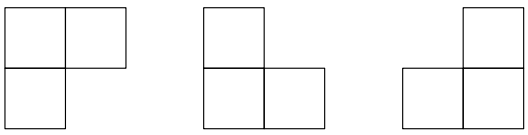


【図２】

あとの問いに答えなさい。

問１　立方体を、面と面を合わせて横一列に１５個つなげます。この立体を竹ひごとねんど玉で作るとき、竹ひごを何本、ねんど玉を何個使いますか。

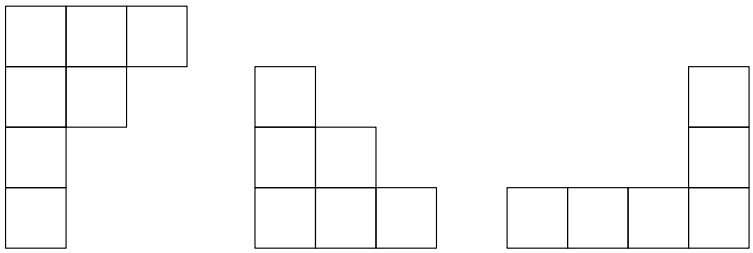
問２　【図３】は立方体を積み重ねてできた立体を上、正面、右からそれぞれ見た図です。この立体を竹ひごとねんど玉で作るとき、竹ひごを何本、ねんど玉を何個使いますか。



【上から】　【正面から】　【右から】

【図３】

問３　【図４】は立方体を積み重ねてできた立体を上、正面、右からそれぞれ見た図です。この立体を竹ひごとねんど玉で作るとき、竹ひごを何本、ねんど玉を何個使いますか。



【上から】　【正面から】　【右から】

【図４】

5 ある整数を以下の＜手順＞にしたがって計算していきます。

＜手順＞

① もとの整数を5で割る。

② ①で求めた数の小数第1位を四捨五入する。

③ ②で求めた数を3倍する。

④ ③で求めた数に、もとの整数を2で割ったときの余りを加える。

＜手順＞に従って求めた数を「トシコー数」と呼びます。

例えば、もとの数が１１の場合は、

① １１÷5＝2.2

② 2.2の小数第1位を四捨五入して2

③ 2×3＝6

④ 6に、「１１÷2＝5あまり1」の1を足して7

となり、１１の「トシコー数」を求めると、7となります。あとの問いに答えなさい。

問1 1から１０までの整数の「トシコー数」を求めて、すべて加えたとき、和はいくつになりますか。

問2 1からある整数までの「トシコー数」を求めて、すべて加えたときに、８００より大きくなりました。ある整数は最も小さくていくつですか。

（問題は前のページで終わり）　　（計算用）

（計算用）

（計算用）